

教 研 一 歩

埼玉教組・埼玉高教北埼玉支部
合同教研実行委員会発行
(553-0744)
2020.9.24(木)

例年に比べて短かった夏休み、行田市は8月1日から23日、羽生市は8月8日から23日、加須市にいたっては8月8日から20日と、3週間から2週間の夏休みでした。生徒、教職員のどれだけの人がゆっくりと休養できたのでしょうか。コロナ禍は私たち学校の教育環境を考える機会にもなりました。小中学校の教室は常に「3密」状態です。教室の広さの基準7m×9mの63m²(昭和25年(1950)に作られた鉄筋コンクリート造り校舎の標準設計)のなか、40人の生徒がひしめき合っています。今年度から行田市は少人数学級「浮き城の先生」制度が廃止され、忍中学校や長野中学校のある教室では、教卓を置くスペースがなくなり、給食の配膳を廊下で行っています。萩生田文科相は9月18日に30人程度の学級を「必要性を真正面から訴え、実現に向けて努力したい」と会見しています。その効果として、学習環境の改善、いじめや不登校の解消、教員の負担軽減が期待されています。私たちのこれまでの主張に追い風になっています。



さて、今年度で76回を迎える合同教育研究集会は、私たちの実践や普段の教育を確認する場です。このコロナ禍で、様々な教育の問題点、感染症にどう向き合っていくか、感染症対策の理由なき変更など、暗中模索の毎日が続いています。今回は分科会を開催せず、全体会に集中しました。コロナ禍での教育について講演を聞き、意見交流を進めたいと考えています。多くの方の参加をお願いします。



今年度の合同教育研究集会は、コロナ禍を考え全体会に集中しました。

10月24日(土) 行田市立行田中学校
受付 体育館 12:30

開会行事 13:00~13:10 問題提起講演 13:10~15:00
問題提起 「コロナ禍で考えたこと、実践したこと。
そしてこれからの学校、教育」
講師 佐々木孝夫先生(上尾中学校 上尾市教職組委員長)

合同教育研究集会に積極的に参加し、成功させましょう。